

第20回 京都から発信する政策研究交流大会

大学生の政治への関心向上のための実践研究

-ユースフェスティバルin福知山を事例に-

福知山公立大学3年杉岡ゼミ

高橋和樹・阿川ねね・後藤結衣・清水彩華・田中敬護・森駿介・山田和香

01 研究背景

02 先行研究並びに先行事例による考察

03 実践研究

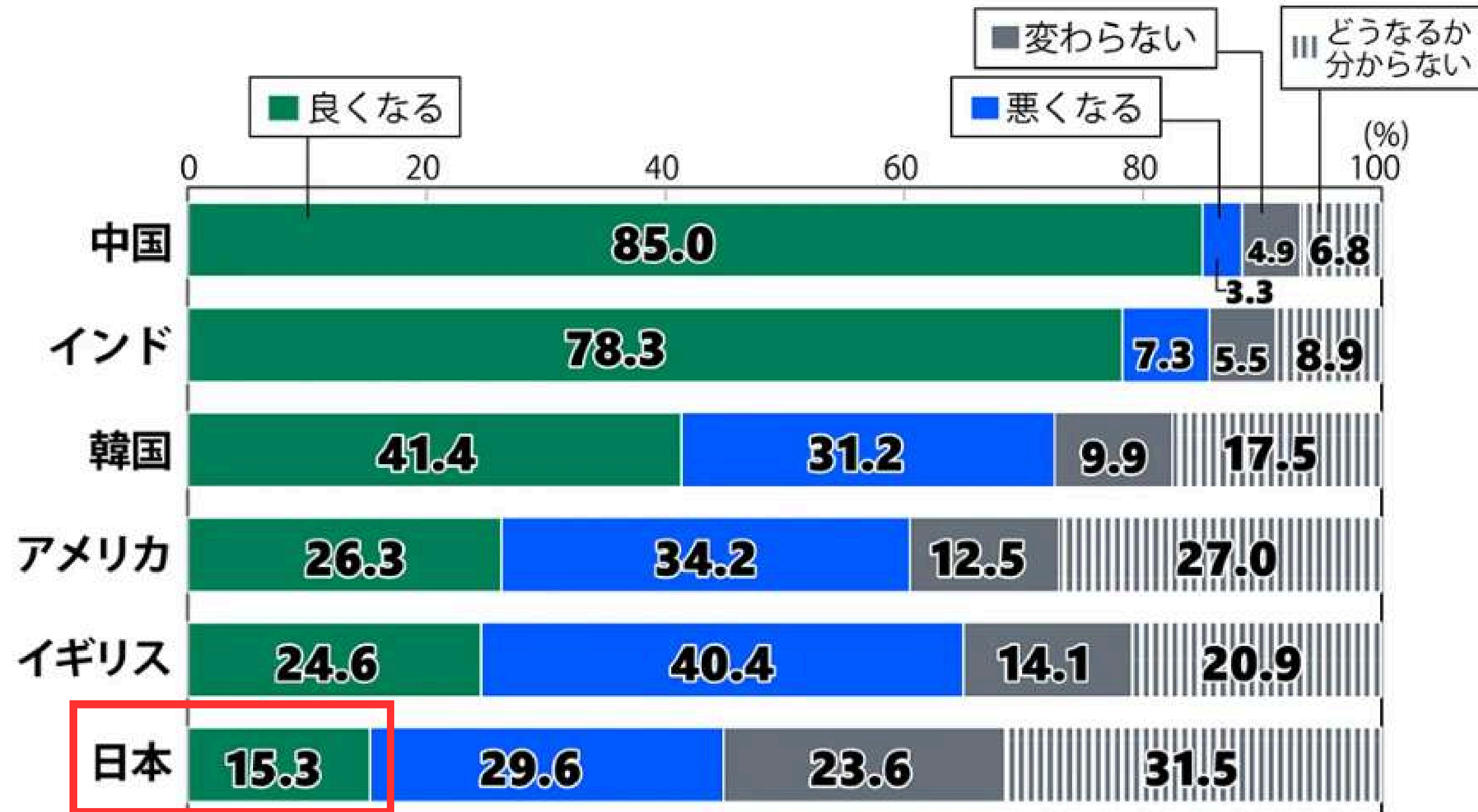
04 政策提言

05 謝辞

06 参考資料

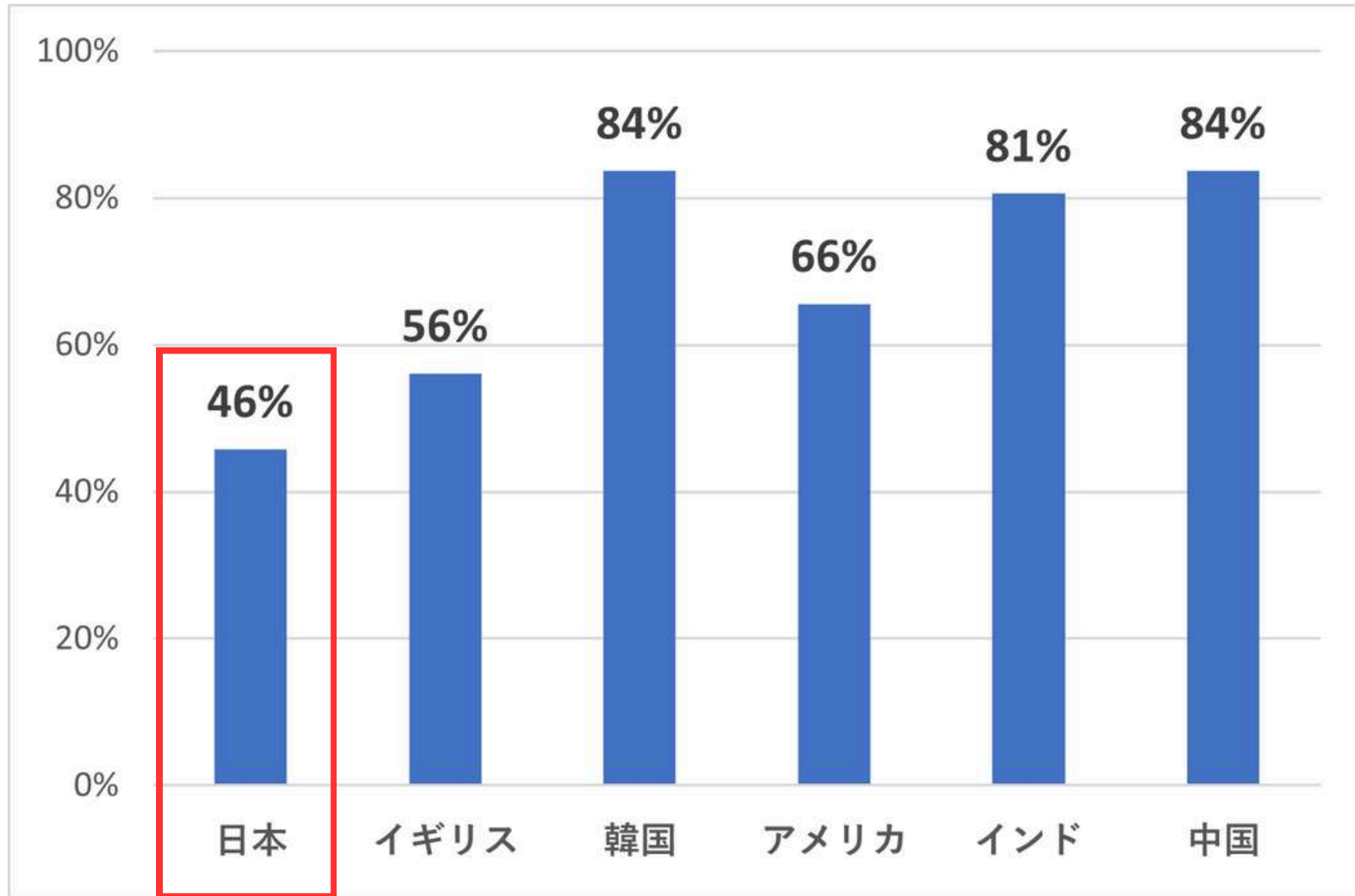
01 研究背景

自国の将来について

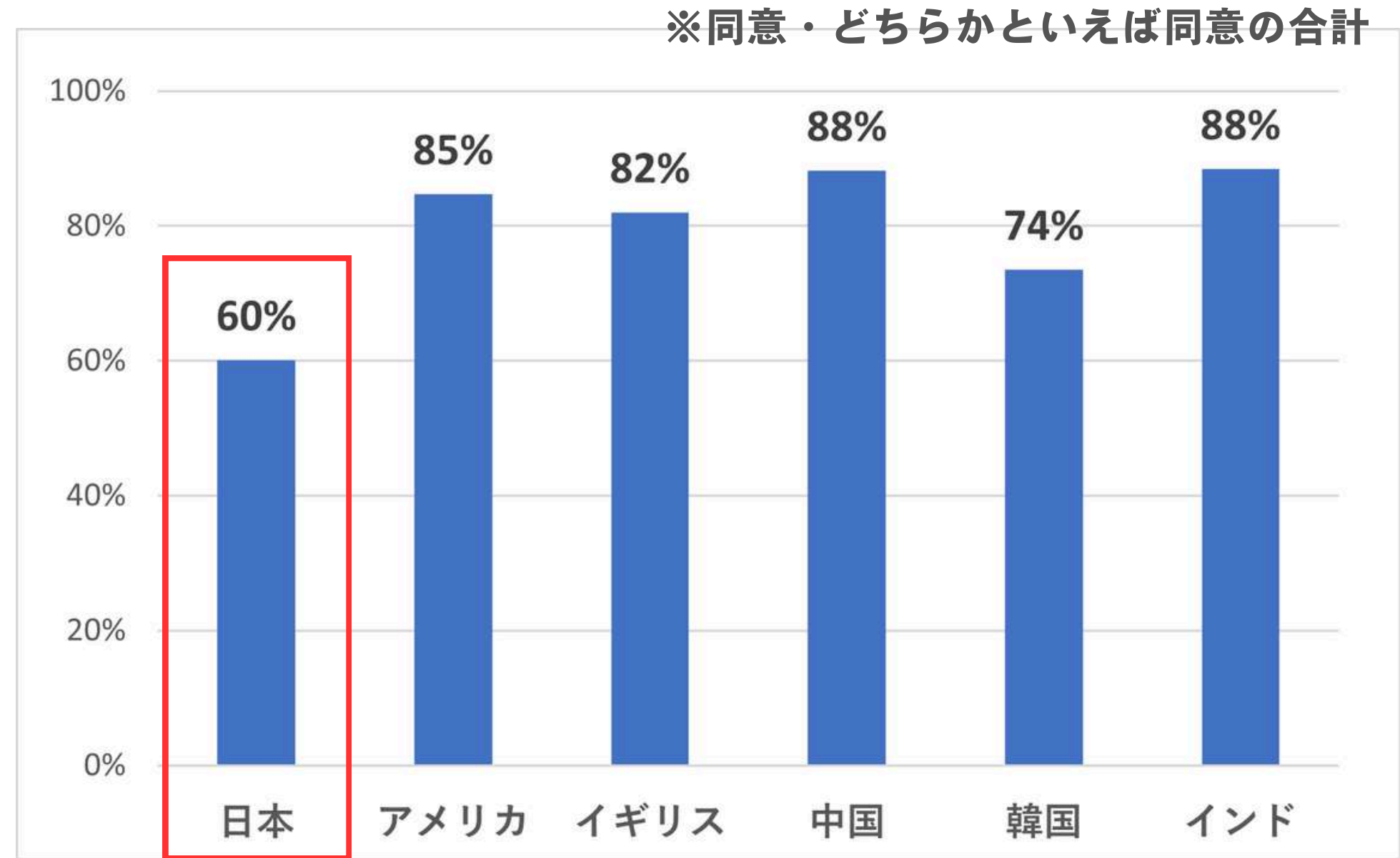


(出典)日本財団18歳意識調査結果第62回テーマ「国や社会に対する意識 (6カ国調査)」、2024 より引用

自分の行動で国や社会を変えられると思うか



将来の夢を持っているか

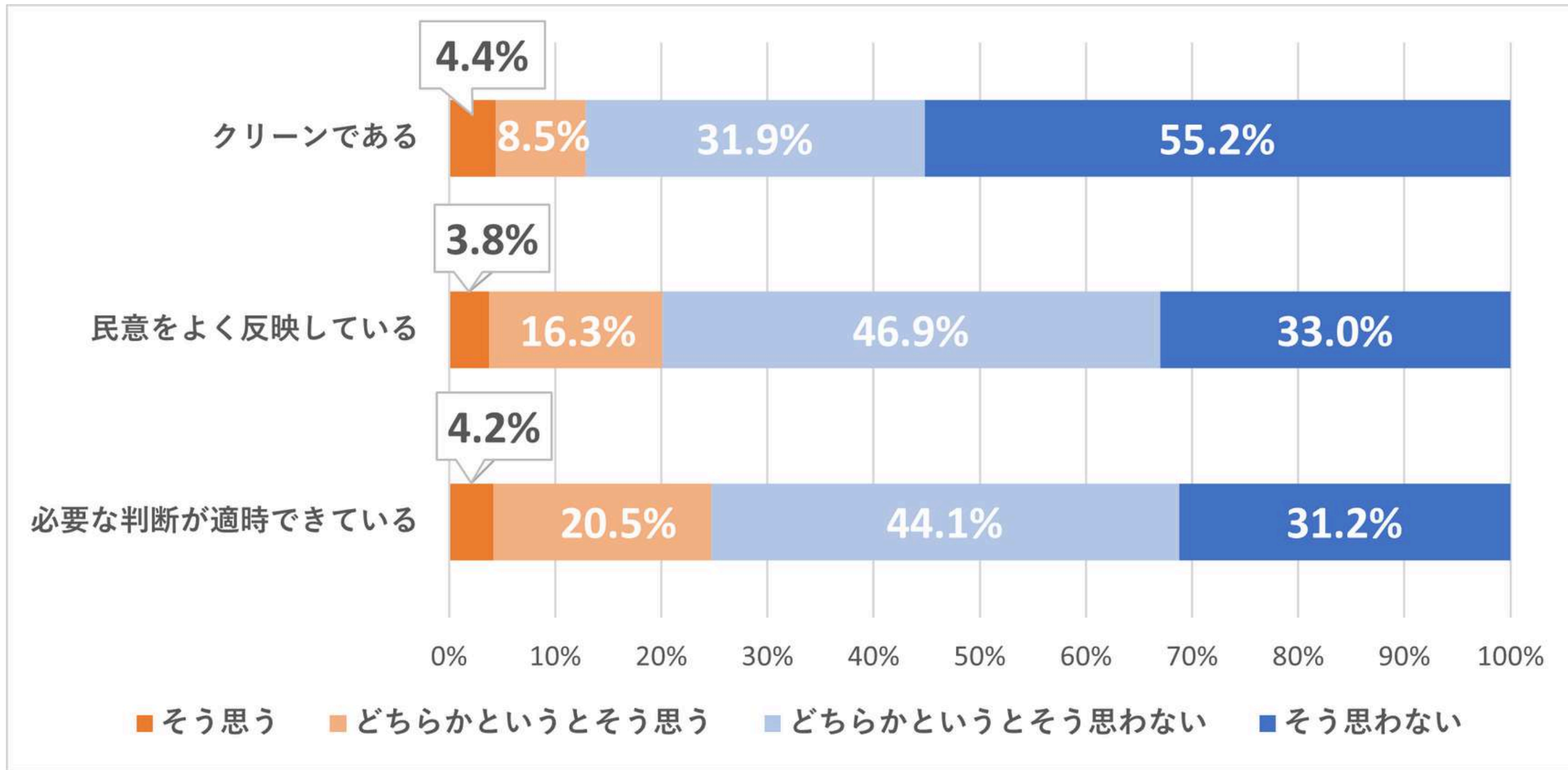


(出典)日本財団18歳意識調査結果第62回テーマ「国や社会に対する意識 (6カ国調査)」、2024を基に筆者作成

日本は6か国中
最下位

他国に比べ日本の若者は自身の将来に対しての期待感が薄い

今の日本の政治に対する印象



(出典)日本財団18歳意識調査結果 第63回テーマ「政治とカネ」、2024を基に筆者作成

若者の政治や国に対する 不信感 & 無関心



アンケート調査の実施

調査目的

福知山市長選挙・市議会議員補欠選挙をきっかけに、
福知山公立大学生は自分のまちや政治に対して
どれほど関心があるのかを調査するため

調査方法

Googleフォームを用いたアンケート調査

調査期間

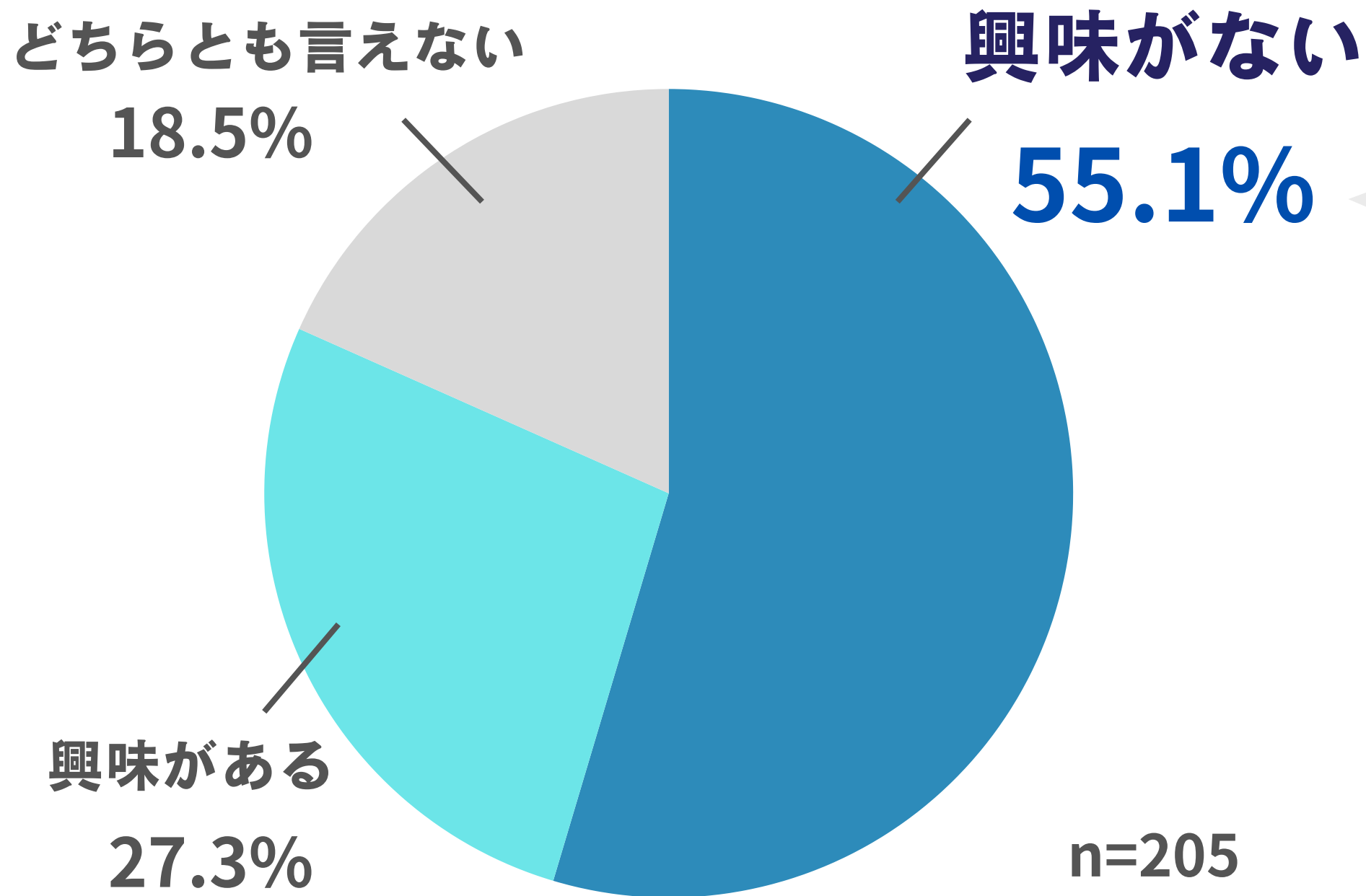
2024年5月27日～2024年5月31日

回答数

205名

Q.福知山市長選挙・市議補選に興味がありますか。

Q.どうすれば興味を持ちますか。



- 大学でイベントをしてほしい
- 授業で取り扱ってほしい
- 議員と直接話せる機会があれば興味を持つと思う

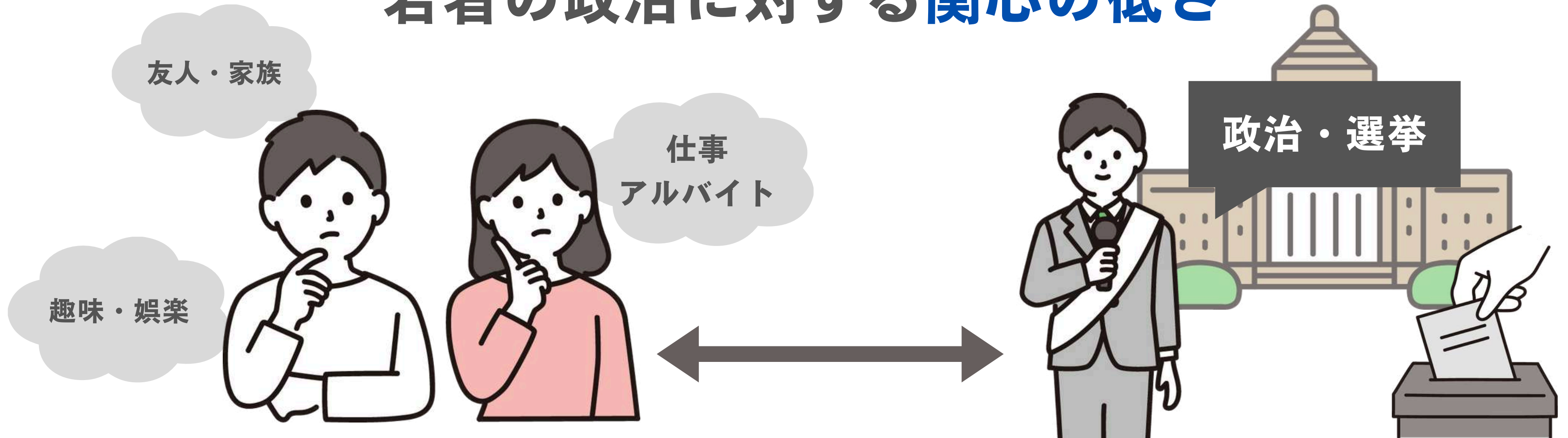
※「興味がない」と回答した方のみ

仮説

政治家との**距離感**が遠い + 政治を“**知る機会**”の少なさ



若者の政治に対する**関心の低さ**



02 先行研究並びに

先行事例による考察

吉川徹 「社会的なものにかかわりたがらない若者たち —社会意識論から見た現代日本の若者」 2018

吉川は、若者の政治離れの背景に**国政選挙制度の複雑化**があると指摘している。

→制度理解には、きわめて高いリテラシーを要する。

また、**政策争点の不明瞭化**も若者の政治離れの一因であると指摘している。

⇒あくまで制度面からの指摘に留まっており、本研究の仮説である、**若者と政治家との関連**については触れられていない。

岡山咲子・倉坂秀史

「大学生の投票意欲に関する属性と意識と行動について」 2021

岡山・倉坂は、大学生の投票意欲には、政治や社会に対する不満よりも、何か社会の役に立ちたい、何かを変えたいという**ポジティブな思いが影響している**と指摘している。

→大学生は、授業や課外活動を通じて、政治や社会情勢を伝えるだけでなく、**ポジティブな意識を醸成する取り組み**を行う必要があると指摘している。

⇒大学生の投票意欲向上のための取組の必要性については指摘しているが、**具体的な取り組みの内容**までは、触れられていない。

櫛引素夫ほか『若者の投票率向上をめぐる検証と対話 青森大学における「ヤングフォーラム2023」の実践から』2024

青森県選挙管理委員会及び青森県明るい選挙推進協議会が主催した
投票率向上を目的とした啓発イベント

参加者からは「議員との話し合いの機会がもっと増えればよい」
「若いうちから選挙に実際に触れる機会をつくるべきだ」との意見が
寄せられた。

⇒イベント前後で参加者の政治への関心がどのように変化したのかについては
触れておらず、不明である。

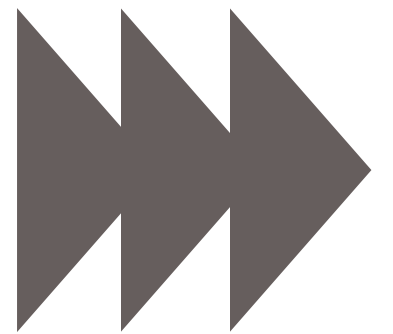
また、このイベントは**投票率向上を目的**としており本研究の目的とは異なる。

若者と政治家との関連性△

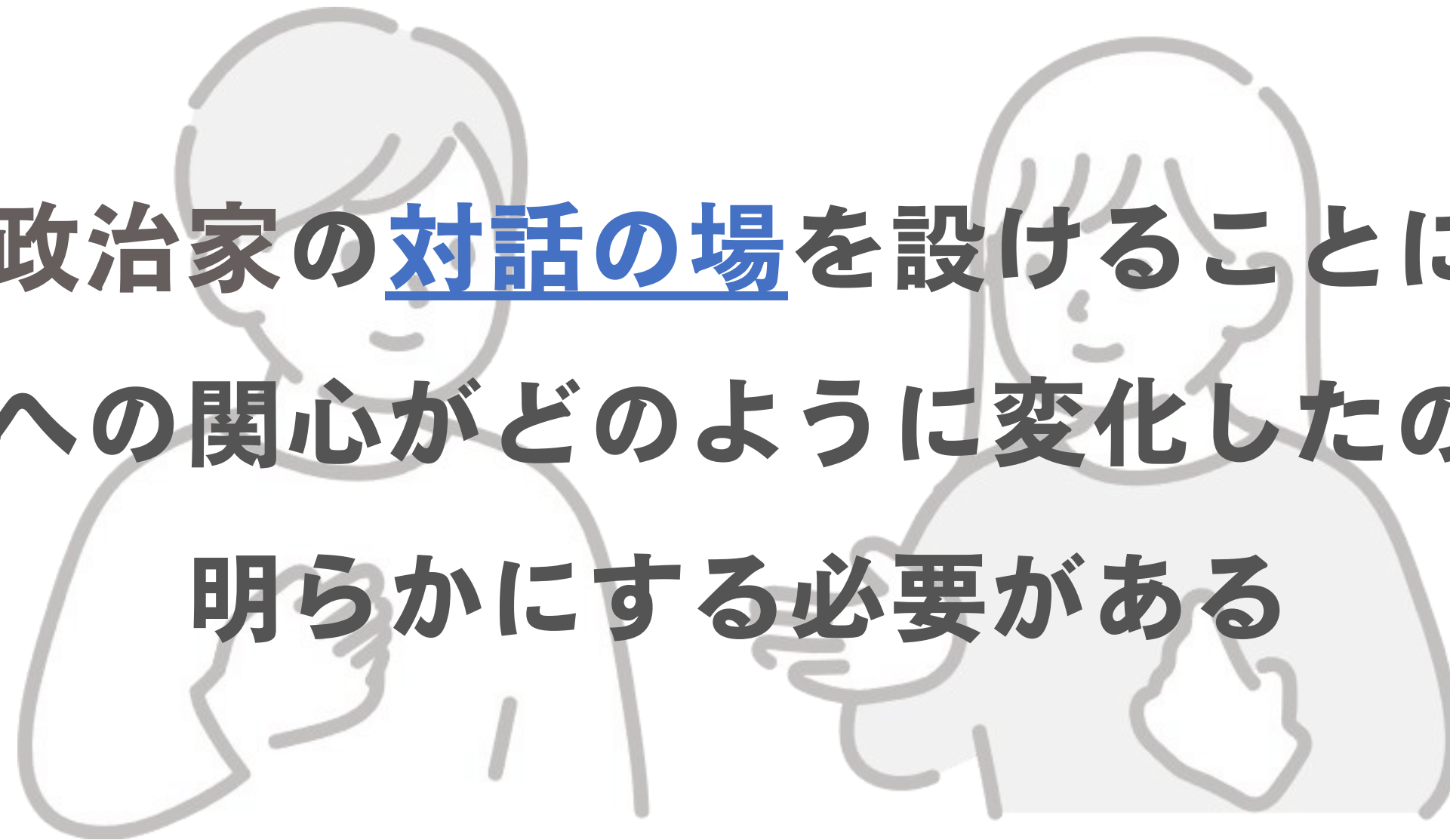
具体的な取り組み内容の検討△

投票率向上を目的とした調査研究

イベント前後の参加者の政治への関心度の調査△



大学生と政治家の対話の場を設けることによって、
政治への関心がどのように変化したのかを
明らかにする必要がある



03 实践研究

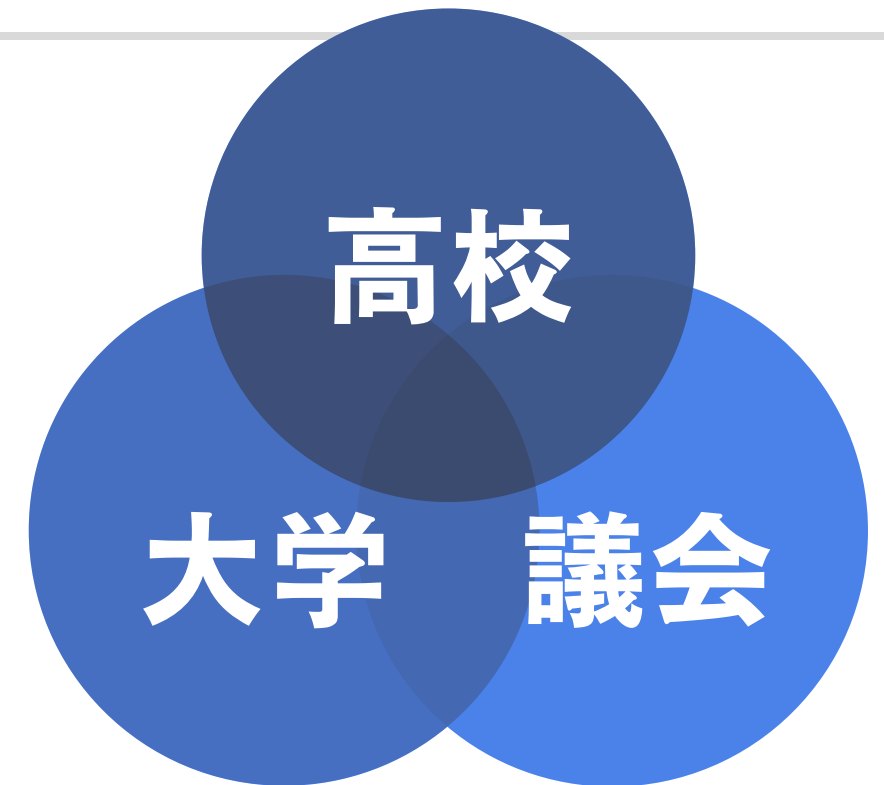
1. Vote Fukuchiyama(Instagramアカウント)

- 2023年4月に行われた統一地方選挙(福知山市議会議員選挙)をきっかけに立ち上げた
- Instagramにおいて、選挙前の啓発活動はもとより、選挙後も政治情報の常時啓発を続けている
- 若者向けに発信している



(出典)筆者ら撮影

2.丹波市議会☆ミライプロジェクト



丹波市議会に対して、丹波市の柏原高校・氷上高校・氷上西高校・特別支援学校の4校の高校生と大学生、議員が連携して、高校生が議会に政策提案を行うプロジェクト

第19回 マニフェスト大賞（議会改革部門）にて
丹波市議会が最優秀賞を受賞（日本一）



ユースフェスティバル

3. Youth Festival in 福知山

日時：2024年11月5日（火）14:30～16:00

目的：政治家と学生の距離を縮めるため

内容：ワールドカフェ形式で議員と学生が対話を行う
(話すテーマは議員に考えてもらったもの)

参加者：関西でご活躍の市議会議員 8 名
(福知山・綾部・宮津・京丹後・豊岡)
+ 福知山公立大学生 16名



Youth Festival in 福知山

普段話すことのない議員と気軽に話ししてみませんか？

入場無料
2024年 14:30-16:00

11月5日(火)

📍 福知山公立大学 食堂
🏠 主催 福知山公立大学地域経営学部杉岡ゼミ

今回参加いただける議員（五十音順）

- ・荒木 慎太郎 氏 (豊岡市議会議員)
- ・イシワタ マリ 氏 (福知山市議会議員)
- ・小松 遼太 氏 (福知山市議会議員)
- ・種清 喜之 氏 (綾部市議会議員)
- ・中島 祐子 氏 (綾部市議会議員)
- ・鳴海 公軌 氏 (京丹后市議会議員)
- ・東田 真希 氏 (京丹后市議会議員)
- ・堀 未季 氏 (宮津市議会議員)

イベント内容

👤 最初に9名の議員に自己紹介をしていただきます！

👥 グループに分かれ、議員・学生が意見交換を行います！
(普段どんな活動を主にしていますか、など議員に直接質問することができます！)

年齢・性別・地域の異なる議員と楽しみながら話してみませんか

申込 フォームよりお申込み下さい。
参加いただける人数に制限があります。
右記からお申込み下さい。
※申込締切11月3日（日）



(出典)筆者ら作成

【イベント詳細】

ユースフェスティバル

Youth Festival in 福知山

【イベント前半】

- ・アイスブレイク：8グループ
(学生2名＋議員1名の3名)
- ・8名の議員による自己紹介(1人3分間)

【イベント後半】

- ・議員に用意してもらったテーマ・話題を中心に、ワールドカフェ形式の対話を実施(15分×2回)



(出典)筆者ら撮影



ユースフェスティバル

Youth Festival in 福知山

【テーマ】

- 投票率を上げるために必要なことは
- 自分がもし政治家になったらどんな感じだと思う？
- 政治をジブンゴトにするには
- 将来地元に戻ってくるために必要な環境は何か
- あなたが市長だったらどんなまちを作りたいか
- 若者、女性の声の反映について
- 自分以外の人困りごとで解決したいと思った出来事は何ですか
- 政治に何%興味があるのか



(出典) 筆者ら作成

議員との距離感を縮めるための工夫

普段着での参加

議員の方々にスーツではなく、**ラフ**な格好で参加してもらった

自己紹介

- 議員として普段
どんなことをしているのか
- 休日は何をしているのか

少人数で対話

1グループ1人の議員と
学生2名で構成したため、**密**に対話できるようにした

▶ 学生に政治家が近い存在だと感じてもらう

新聞にも掲載していただきました！！

若者の政治関心 高める発信は？ 福知山公立大生と市議が対話

10、20代の政治参加を高めようと、福知山公立大（福知山市）で5日、福知山市や綾部市などの市議会議員8人と学生16人が語りあった。地域経営学部の杉岡秀紀准教授のゼミが開いた。イメージが変わったという学生もいた。

綾部市議の種清喜之さん(40)は「議会や政治家がどのように情報発信をすれば若い世代は関心を持ってくれるか」をテーマにした。TikTokの動画を議会で使うことを提案すると、学生

の1人は「若者が見るのはインスタグラム。顔が見えて親近感



8カ所のテーブルに分かれて市議と語り合う学生＝福知山市場

がわく」。もう1人は「インパクトが必要。議員のイメージは『スーツを着て、おじいちゃん』だけど、マッチョや赤髪の議員がいたら、こういう人でもなれるんだと関心を持つ入り口になる」と答えた。

企画した3年生の山田和香さん(20)は「テレビでしか政治家に触れていなかったのでも悪い印象しかなかった。仕事してるのかなあという感じだったが、地域に熱い思いをもっていると分かった」と話した。(滝川直広)

朝日新聞11/9



3年の山田和香さん(20)は「いろんな話を聞き、政治家が将来の選択肢の一つになった」と話し、東田真希・同市議(53)は「若者と話す機会が少ないので新鮮

大学生地元市議と交流

福知山公立大 意見交換や助言



議員(左)と会話して交流を深める学生たち(福知山市で)

福知山市の福知山公立大 地域経営学部の杉岡秀紀准教授のゼミ生ら16人が、同市や近隣市の市議らと意見

交換をして交流を深めた。5日にユースフェスティバルと題し、政治やまちづくりに関心をもち、自分たちが分たちでできることは何だろうと考えることが大事

などアドバイスしていた。

3年後藤藤衣さん(21)は「近づきにくい印象だった議員に直接会い、身近に感じられた。自分も地域や議員への関心をより深めようと思った」と振り返った。

市議らは「若者の問題意識が低い訳ではないと分かった。動画を使ったSNSでの発信を新たな取り組を考えてい」と話した。(長尾康行)



市議会議員(右)と意見交換する学生たち

政治家が身近な存在に

公立大 学生が市議と気軽に交流

福知山公立大の学生と近畿北部の自治体の市議会議員が気軽な雰囲気の中で語り合うユースフェスティバルが、福知山市の同大学で開かれた。若者が持つ政治や議員に対するイメージ、関心を高める方策について意見を交わした。

地域経営学部の杉岡秀紀准教授の3年生ゼミが開かれた。福知山市や綾部市などの市議会議員8人と学生16人が語り合った。イメージが変わったという学生もいた。

綾部市議の種清喜之さん(40)は「議会や政治家がどのように情報発信をすれば若い世代は関心を持ってくれるか」をテーマにした。TikTokの動画を議会で使うことを提案すると、学生

の1人は「若者が見るのはインスタグラム。顔が見えて親近感がわく」。もう1人は「インパクトが必要。議員のイメージは『スーツを着て、おじいちゃん』だけど、マッチョや赤髪の議員がいたら、こういう人でもなれるんだと関心を持つ入り口になる」と答えた。

企画した3年生の山田和香さん(20)は「テレビでしか政治家に触れていなかったのでも悪い印象しかなかった。仕事してるのかなあという感じだったが、地域に熱い思いをもっていると分かった」と話した。(滝川直広)



福知山・舞鶴両線 1-20年の写真も

西日本鉄道OB会 交流プラザで

西日本鉄道OB会福知山支部が、福知山駅前の市民交流プラザで、舞鶴線全線開業120周年の歴史と変遷を分ける写真も展示している。10日まで。

福知山地方本部は福知山、綾部、舞鶴、兵庫、豊岡市などに在籍の旧国鉄職員、元JR社員らで構成。会員は現在約1,000人いて、生きがいづくりと親睦を目的に、毎年作品展を開催している。

今回は会員や家族ら45人の絵画、写真、俳句、川柳、短歌、工芸品など約140点を出展している。

西線全線開業120周年関連の写真は東舞鶴駅を出発する列車から

福知山駅前の市民交流プラザで第15回生誕祭を開催している。JR福知山線・舞鶴線全線開業120周年の歴史と変遷を分ける写真も展示している。10日まで。

福知山地方本部は福知山、綾部、舞鶴、兵庫、豊岡市などに在籍の旧国鉄職員、元JR社員らで構成。会員は現在約1,000人いて、生きがいづくりと親睦を目的に、毎年作品展を開催している。

今回は会員や家族ら45人の絵画、写真、俳句、川柳、短歌、工芸品など約140点を出展している。

西線全線開業120周年関連の写真は東舞鶴駅を出発する列車から

ポムポムプリンとコラボ企画を実施

京都丹後鉄道丹波川口駅、サンリオの人気キャラクター「ポムポムプリン」とのコラボ企画「ポムポムプリンとおでかけ」を11月10日から実施

【赤口】
 一白川見通し
 二黒川見通し
 三黒川見通し
 四黒川見通し
 五黒川見通し
 六黒川見通し
 七黒川見通し
 八黒川見通し
 九黒川見通し

政治関心 どうアツプ

「議員と主権者 距離遠いこと遠因か」



若者の政治参加などをテーマに市議と意見を交わす福知山公立大の学生たち(福知山市場・同大学)

親近感の増す方策探る

福知山公立大の学生と近畿北部の自治体の市議会議員が気軽な雰囲気の中で語り合うユースフェスティバルが、福知山市の同大学で開かれた。若者が持つ政治や議員に対するイメージ、関心を高める方策について意見を交わした。

地域経営学部の杉岡秀紀准教授(公共政策学)のゼミが5日、催した。国内の若者の政治への関心が低い現状を研究しており、議員と主権者の距離が遠いことが背景の一つと考え、直接出会う場を設けた。

同学部13年16人と、福知山、綾部、舞鶴、兵庫、豊岡市や丹波市などの市議会議員8人が参加した。議員パッシを介した市議との対話や、議員と学生が一つのテーブルに寄り添いながら話した。あるテーブルでは、議員が「親近感も湧かない人に投票できない」という学生に対し、市議が「政策を訴えるだけの従来のやり方を変えてほしい」と述べた。

若者の投票率を高める方法を問われた別の市議は「周囲の人の困り事を解決するため、自分の一票を使う視座を持ってほしい」と呼びかけた。「同じ思いを持つ人々となら、政治への関心の高まりにつながる」と強調した。

3年後藤藤衣さん(21)は「近づきにくい印象だった議員に直接会い、身近に感じられた。自分も地域や議員への関心をより深めようと思った」と振り返った。

市議らは「若者の問題意識が低い訳ではないと分かった。動画を使ったSNSでの発信を新たな取り組を考えてい」と話した。(長尾康行)

読売新聞11/27

両丹日日新聞11/8

京都新聞 11/14

(大学生対象)

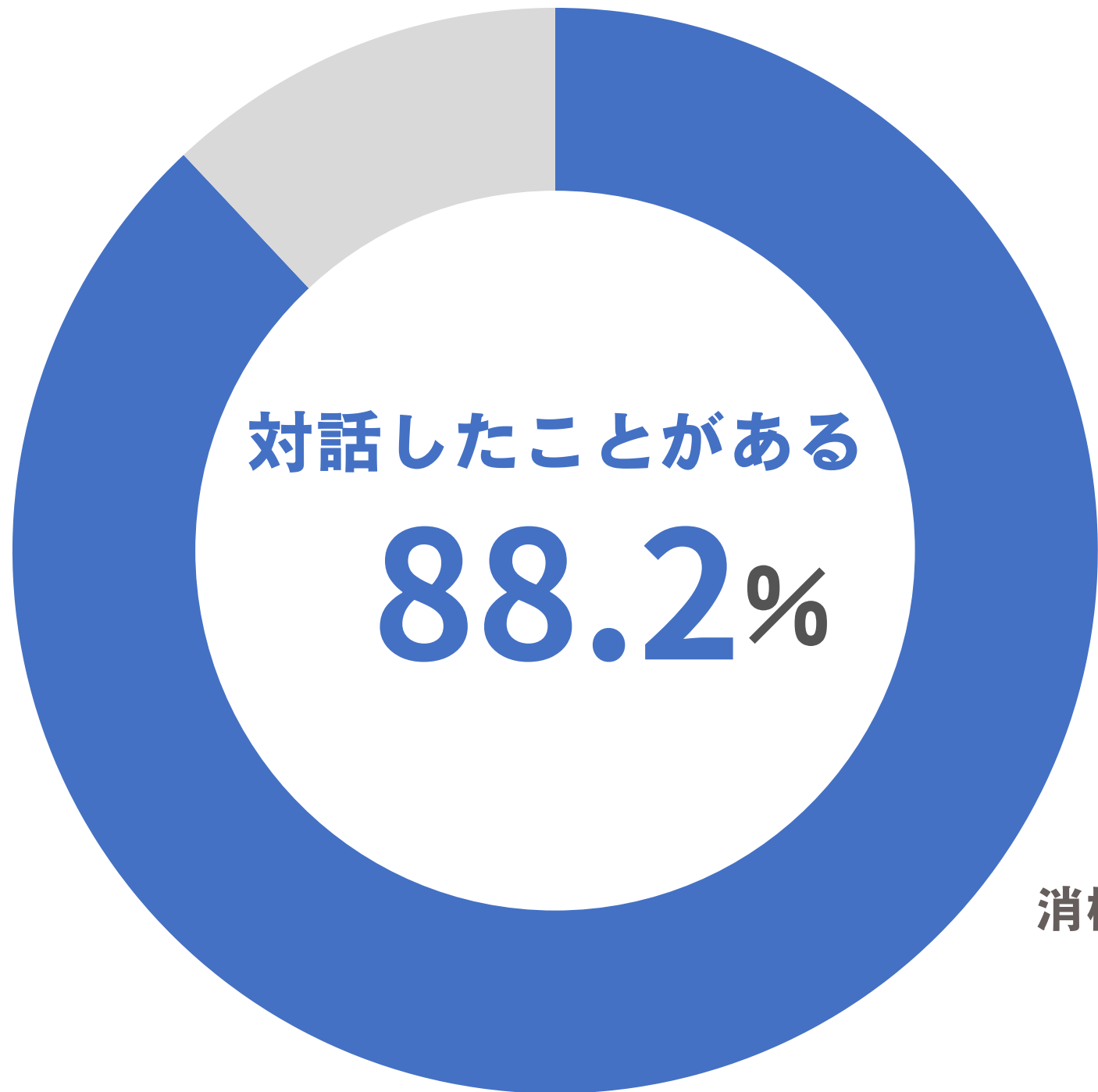
事前アンケート

調査方法：Googleフォームを用いたアンケート調査

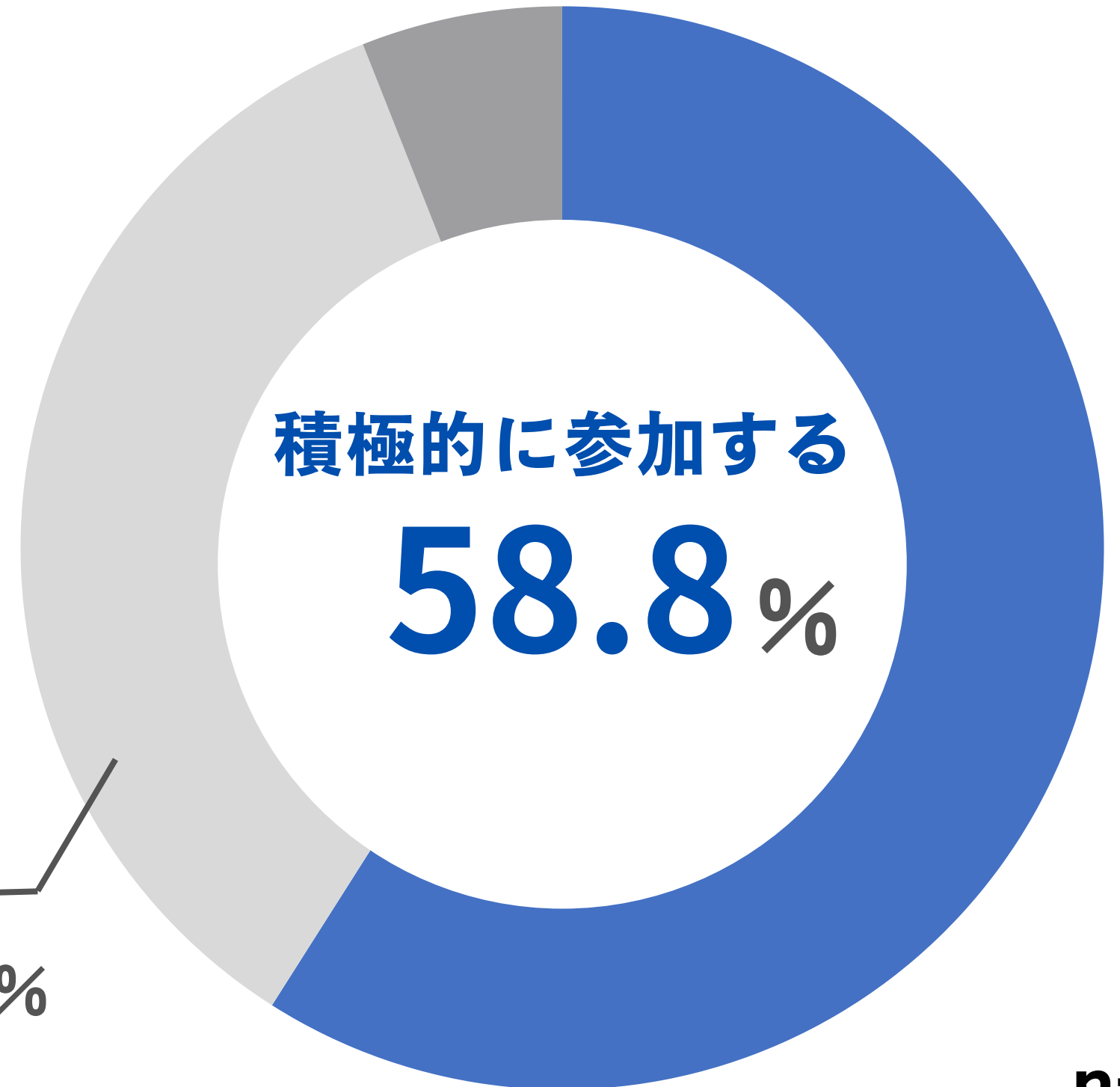
調査対象：福知山公立大学生16名

01 これまで議員と直接対話したことがありますか。

02 現時点で、自分の住民票がある地域(地元など)の議員とお話する機会があれば参加しますか。

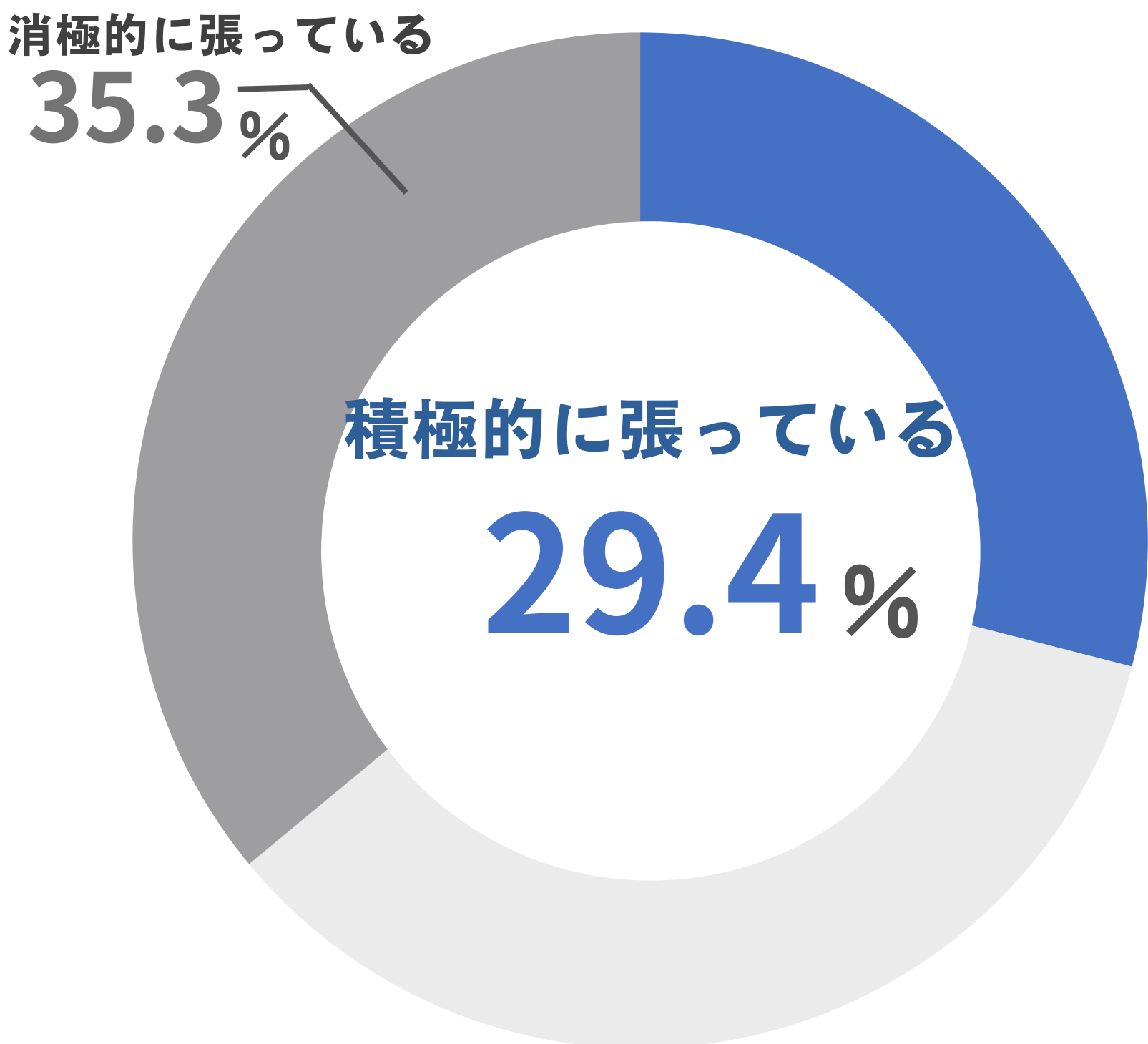


消極的に参加する
35.3%

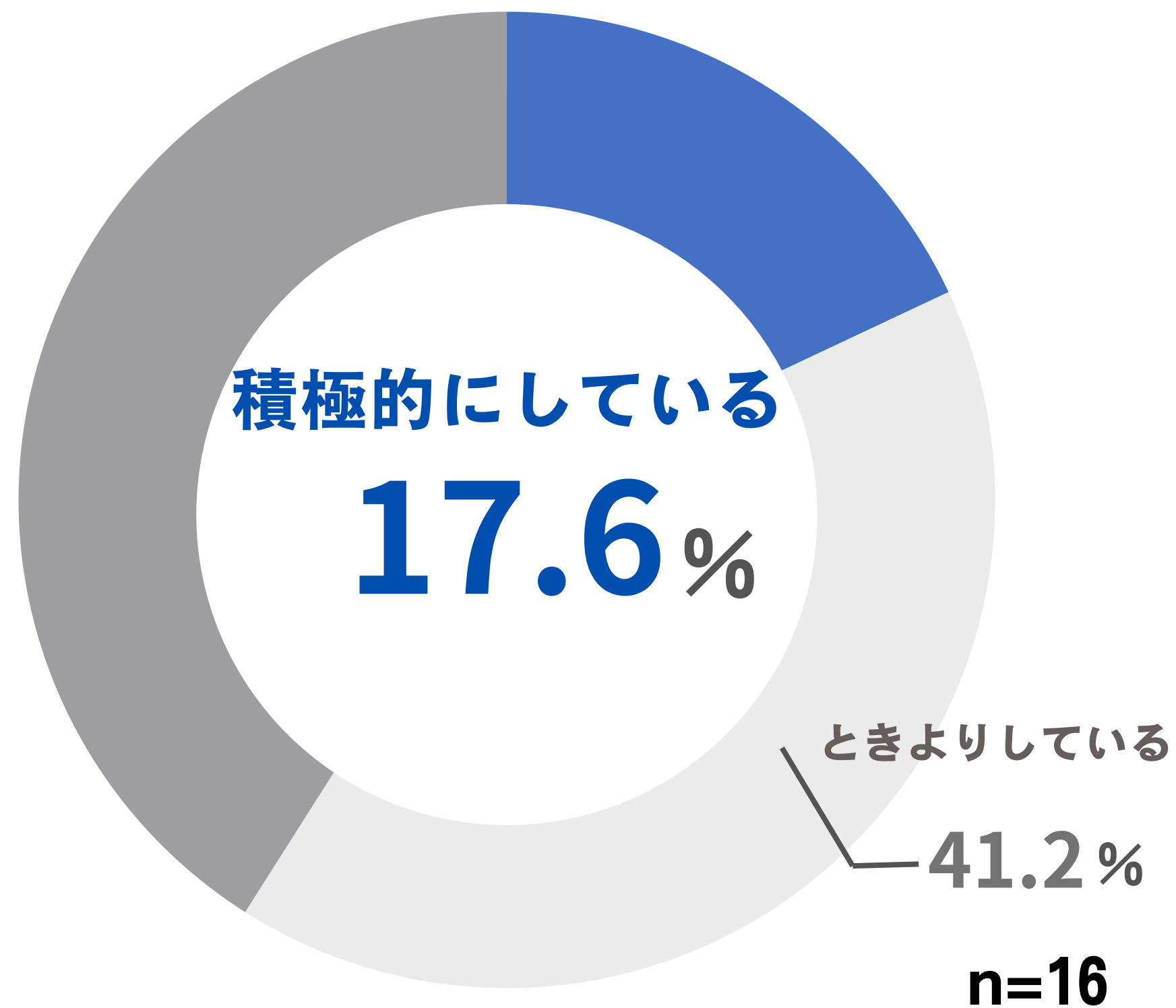


n=16

03 現時点で、議員の活動にアンテナを張っている、もしくは張っていきたいと思っていますか。



04 現時点で、政治に関する意見を日常会話でしていますか。



(大学生対象)

事後アンケート

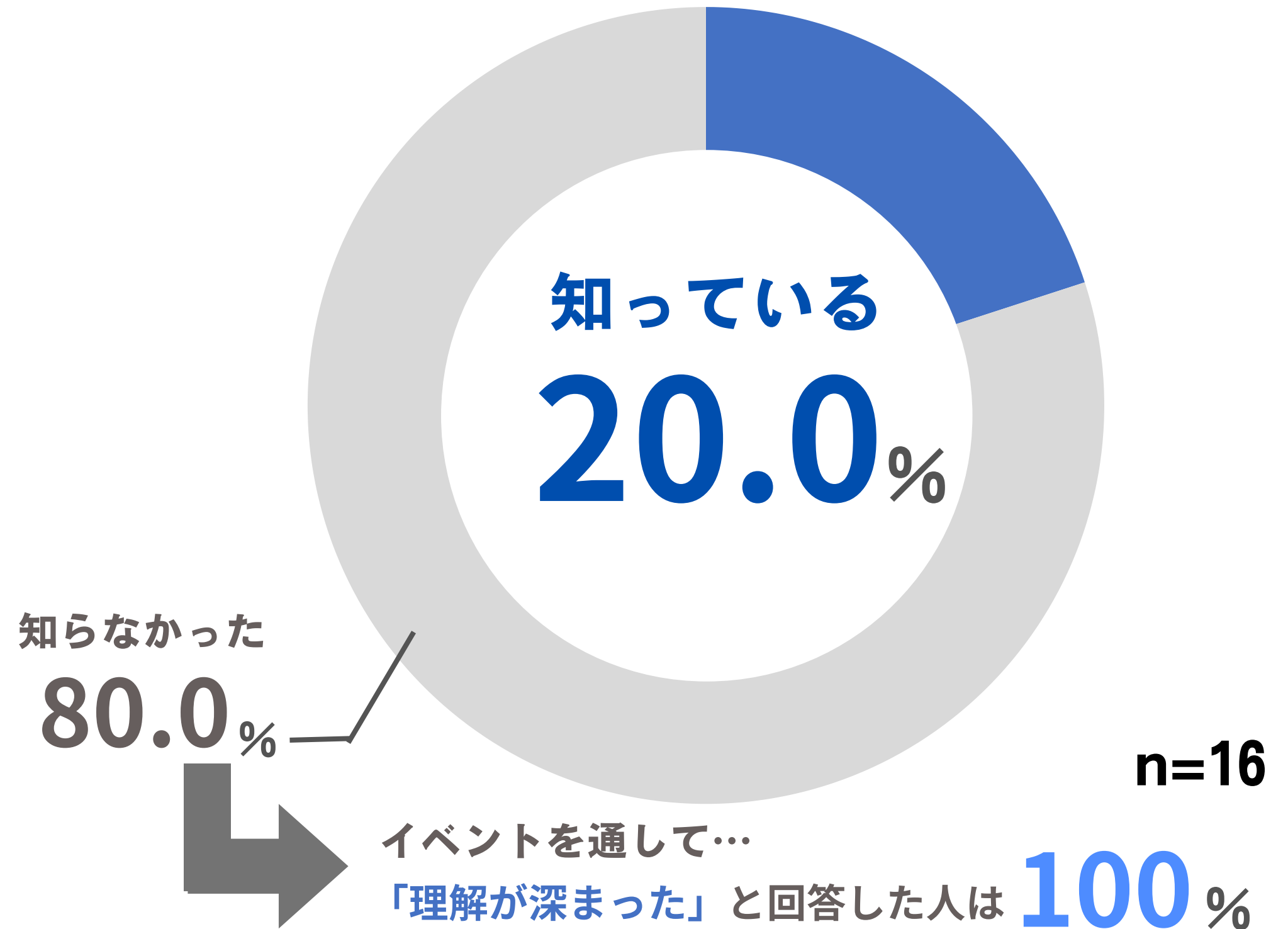
調査方法：Googleフォームを用いたアンケート調

調査対象：福知山公立大学生16名

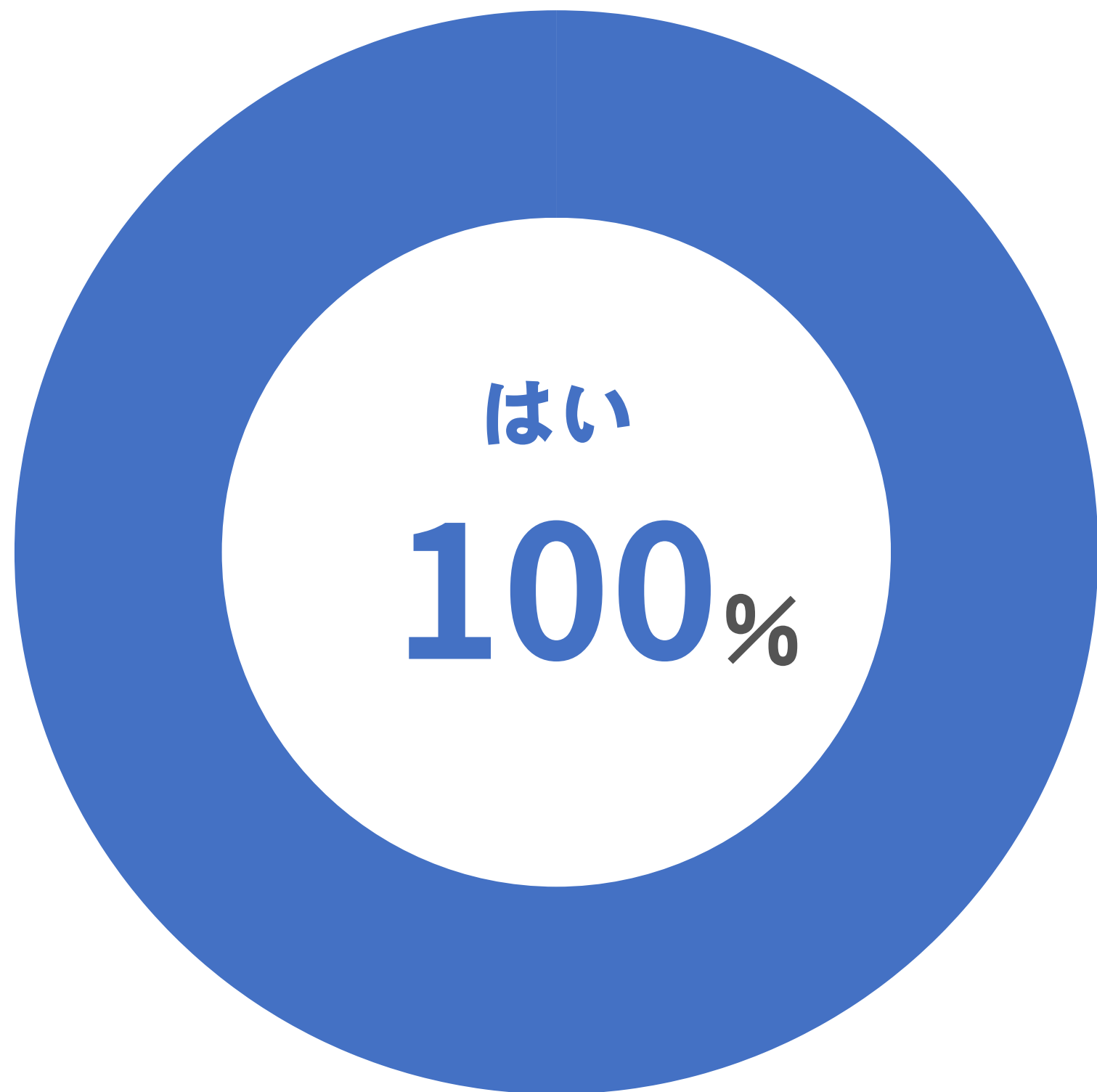
01 イベントへの参加前後で議員に対するイメージは**プラス**に変わりましたか。



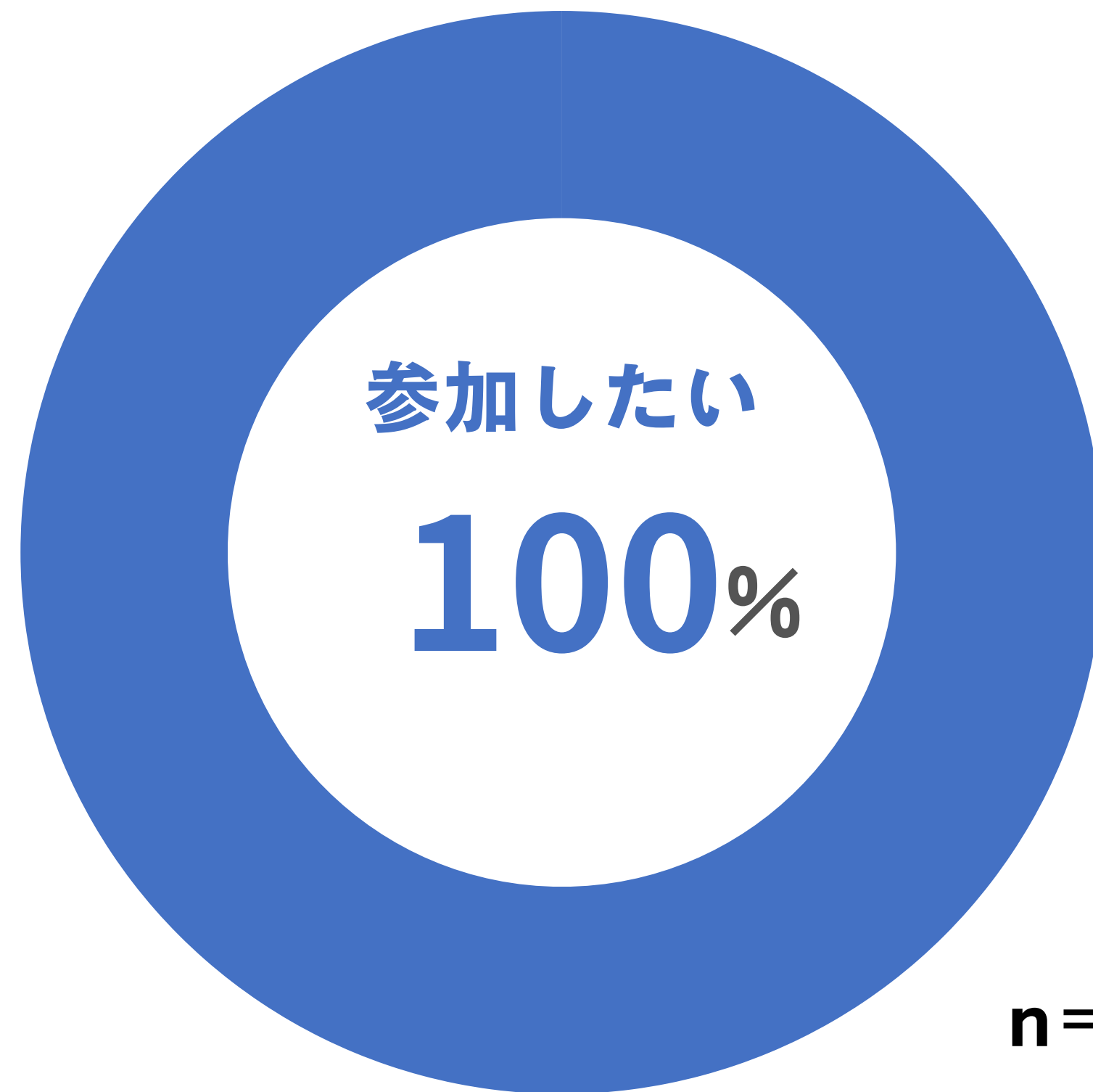
02 議員が普段どのような活動をしているのか知っていましたか。



03 イベントに参加したことで、市政や議員について自分で調べようと思いましたか。



04 今回のようなイベントが今後もあったら参加したいですか。



n = 16

05 政治家に対するイメージが「変わった」と答えた人は、どんなイメージに変わりましたか。(一部抜粋)

- ・ 思っていたよりも**身近な存在**だった
- ・ すごく未来に対して明るい希望や想いを持ち地域を盛り上げようとしている人で溢れていた
- ・ 学生との関わりを持ちたいと思っていること
- ・ 話しやすい雰囲気を持っている
- ・ より**身近な存在**になり、**親近感**が湧きました

(議員対象)

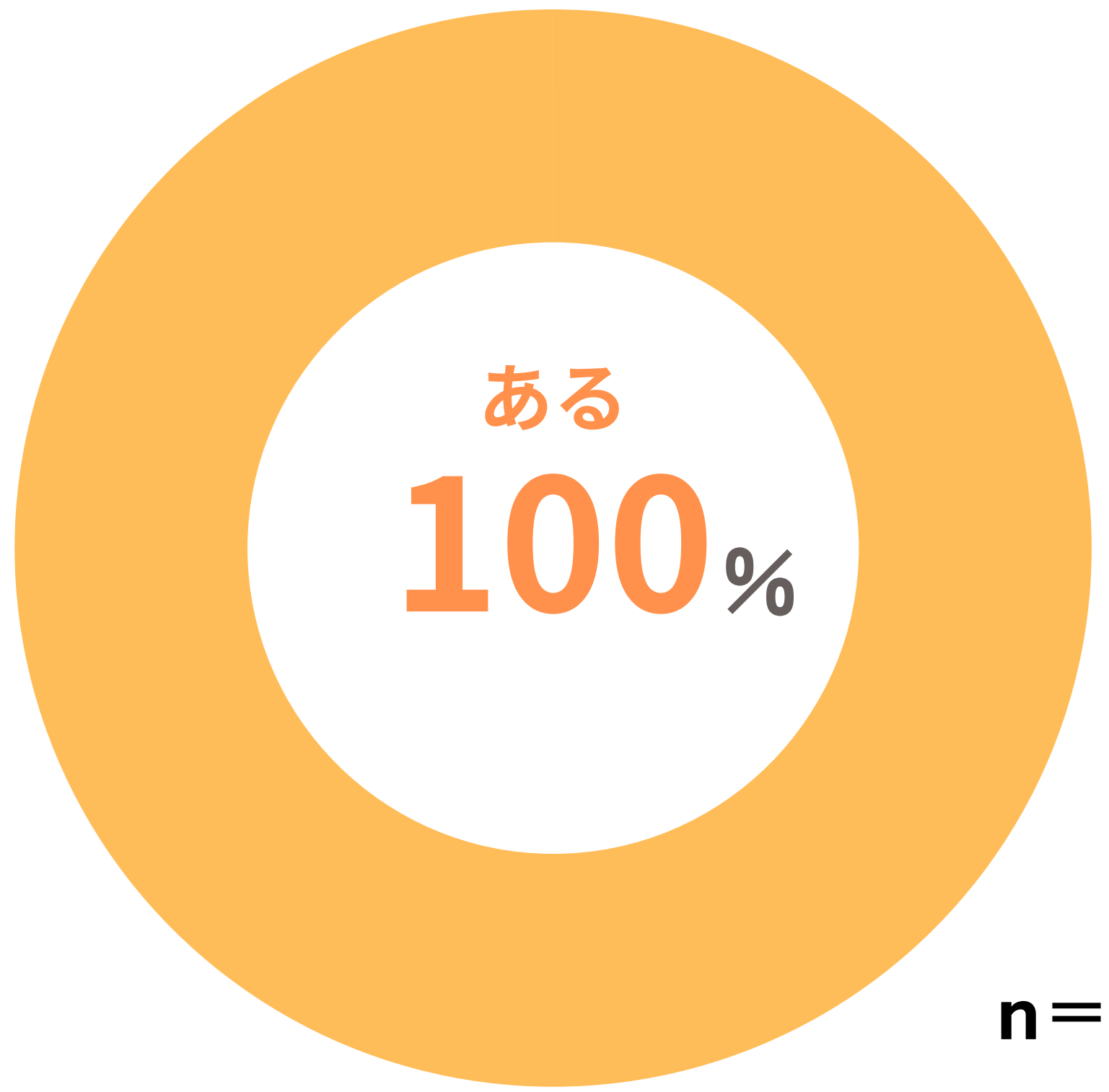
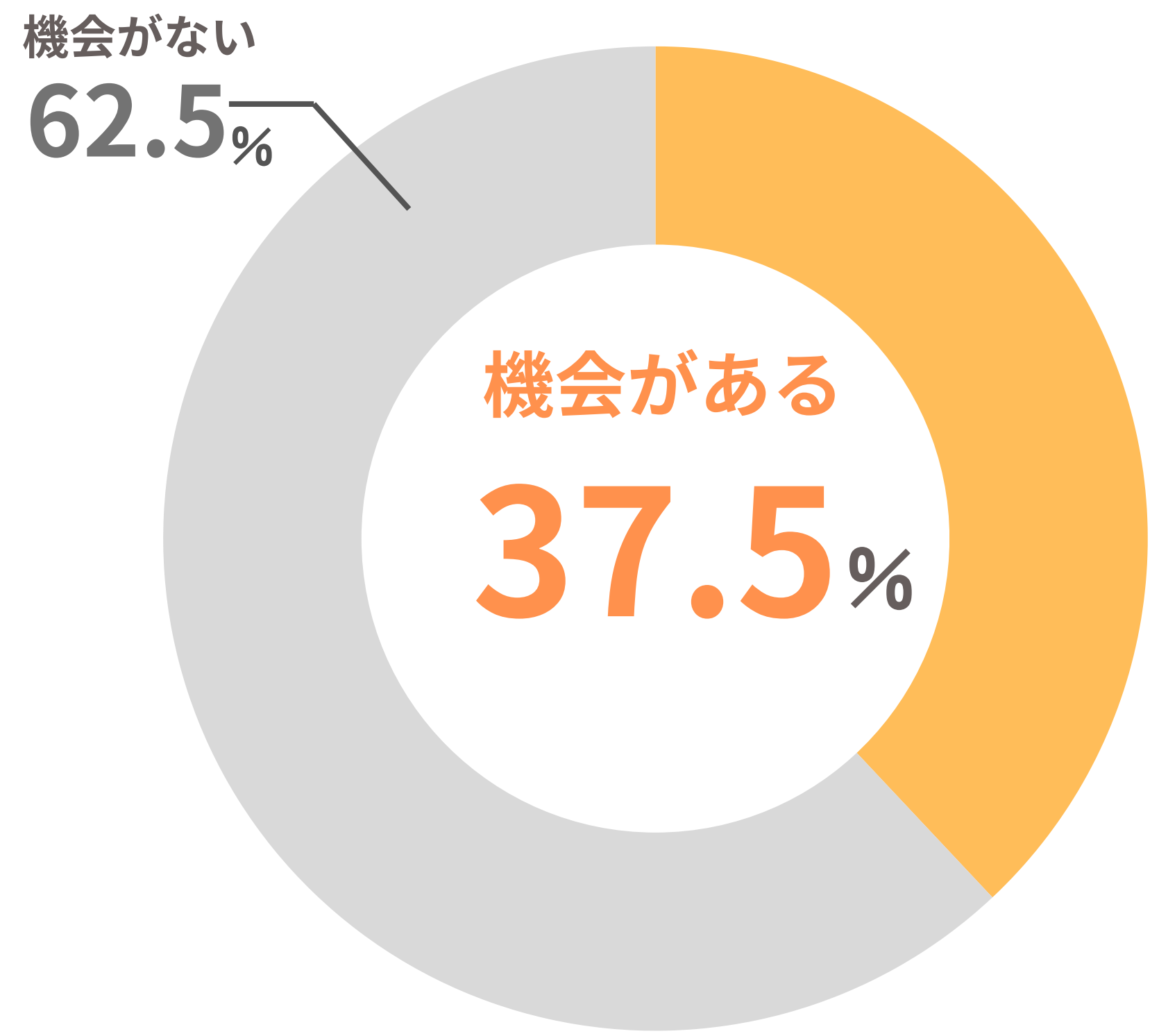
事後アンケート

調査方法：Googleフォームを用いたアンケート調査

調査対象：市議会議員 8名

01 学生と普段関わる機会がありますか。

02 政治に対する若者の関心度について 問題意識はありますか。



n = 8

03 今後、学生と関わる機会を増やしていきたいと思いませんか。



思う
100%

04 今回のようなイベントがあれば、また参加したいと思いませんか。



思う
100%

※一部抜粋

05 今回対話してみても大学生にどのようなイメージを持ちましたか。

- ・「知る」きっかけがあることで、学生も政治に興味を持ってくれるとわかりました。議員の方も皆さん話しやすかったです。
- ・義務感で参加している様子がなく、熱心に質問をしてくれたり質問に返答してくれて嬉しかったです。

調査結果 学生

「議員のイメージがプラスに変わった」
「市政や議員について自分で調べてみようと思った」

100%



「実際に政治家と話してみる」という機会は、
学生にとって政治に興味を持つきっかけになる可能性が高い

調査結果 議員

100%

「政治に対する若者の関心度について、問題意識はある」
「今後学生と関わる機会を増やしたいと思う」



政治家にとっても「学生と話してみる」という機会は、
有意義であることが分かった

イベントに参加した学生・議員から
「話す時間が足りなかった」「また参加したい」という意見も
議員にとっても学生にとっても、双方が「また話したい」存在になった



継続的に話す機会を設ける事で、
多くの学生が政治に対して興味を持ってくれるのではないかと考える

	2016年度調査 (N=5966)	2019年度調査 (N=1242)	2022年度調査 (N=884)
公職選挙法や選挙の具体的な仕組みの 理解を深める学習活動	89.4%	84.6%	76.1%
現実の政治的事象について考察を 深める話合いや意見交換、議論	20.9%	34.4%	29.3%
模擬選挙、模擬請願、模擬議会といった 実践的な学習活動	29.0%	47.3%	38.2%
その他	8.2%	14.6%	10.2%

(出典)全日本自治団体労働組合「月間自治研」

・主権者教育

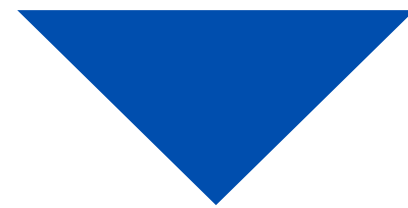
模擬投票の実施、選挙制度の教育(不在者投票、期日前投票など)が多い

04 政策提言

政治に関心を持つには、
模擬選挙や出前授業、選挙制度などの
制度面の教育を行うだけではなく
より政治家と関わる・対話する機会の創出が必要

【課題】

政治家と話すハードルの高さ × 対話の機会の必要性



エンタメ要素(より参加へのハードルを下げる)を

取り入れた

政治家と対話する機会をつくることが必要

2025年ver.



Youth



Festival

■主催：福知山公立大学杉岡ゼミ

■会場：福知山市民交流プラザ(市民交流スペース)

■日時：土日・祝日

■目的：福知山公立大学生と政治家との距離を縮めるきっかけにするため

■対象：福知山公立大学生(40名程度)＋高校生(20名程度)

■参加議員：若手議員

市議会議員に加え、都道府県議会議員、国会議員など(20名程度)

■ 内容

01 サークルなどの舞台発表＋ライブ(30分)

議員の方にも舞台発表やライブに参加してもらい、交流を図る



02 議員紹介＆グループ分け(20分)



03 グループごとで自己紹介＆アイスブレイク(10分)

政治家の方には普段どんな活動をしているか、休日にはどんなことをしているかお話してもらおう

04 ワールドカフェ形式の対話(30分×3ローテ)

政治家と大学生が互いに用意した話題について対話を行う



今後の検討課題

- 規模の拡大
 - 参加者・参加人数などは、イベントごとにアレンジが必要
- 議員の選定基準
 - 客観的に選定することが難しい
- 集客のための広報
 - SNSを用いた効果的な広報が必要となる

**ユースフェスティバルに参加いただいた市議会議員の皆様
福知山公立大学の学生の皆さん
ご多忙の中、本調査研究にご協力くださりましたことに
この場をお借りして深く感謝申し上げます。**

- 朝日新聞、2024年11月9日
- 岡山咲子、倉坂秀史「大学生の投票意欲に関する属性と意識と行動について」、自治体学会 35巻、1号、pp.76-80、2021
- 吉川徹「社会的なものにかかわりたがらない若者たち 社会意識論から見た現代日本の若者」日本教育心理学年報、57巻、pp.276-278、2018
- 京都新聞、2024年11月14日
- 櫛引素夫、櫛引素夫、池田修真、大野愛梨、加藤未宙、木村拓海、高橋優誠、藤田奏、三浦紗綾、山田青空
『若者の投票率向上をめぐる検証と対話 青森大学における「ヤングフォーラム2023」の実践から』、青森大学附属総合研究所紀要、25巻、2号、pp.43-52、2024
- 全日本自治団体労働組合、「月刊自治研」、2024年11月号

- 日本財団18歳意識調査結果 第62回テーマ「国や社会に対する意識（6カ国調査）」、2024
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2024/20240403-100595.html>
(閲覧日：2024/12/2)
- 日本財団18歳意識調査結果 第63回テーマ「政治とカネ」、2024
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2024/20240509-101222.html>
(閲覧日：2024/12/2)
- マニフェスト大賞実行委員会 「第19回受賞結果」
<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/award/#5> (閲覧日 2024年12月2日)
- 読売新聞、2024年11月27日
- 両丹日日新聞、2024年11月8日